科目名		MOT特論(Management of Technology)							
学年	専攻	単位数	必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数			
第2学年	経営情報工学	2単位	選択	講義	後期 100分/週	90時間			
担当教員		【常勤】根岸 可奈子							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル	・MOTに関する専門知識を身に付けることができる。 ・特定の企業や産業のMOTIについて分析し、独自の見解を論理的に説明することができる。								
学習・教育目標	(C)③	JABEE基準1(2)	(d)-(1)						
関連科目, 教科書および補助教材									
関連科目	MOT入門								
教科書	「MOT技術経営入門」延岡健太郎著 (日本経済新聞社)								
補助教材等	適宜、雑誌記事や論文を配布する。								
達成度評価(%)									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
	総合評価割合	30	30		20	20			100
知識の基本的な理解 【知識の基本的な理解】	○	○		○					
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】	○	○		○	○				
汎用的技能 【論理的思考力】	◎	◎		○	◎				
態度・志向性(人間力) 【主体性】					○				
総合的な学習経験と 創造的思考力 【創成能力】	◎	◎		◎	◎				
学習上の留意点および学習上の助言									
本講義のテキストは「入門」とあるが、内容は1Kで学んだものの応用となっており、MOTの基礎事項が身に付いていることを前提としている。 また、授業中は受講者で分担しテキスト内容の報告と質疑応答を行い議論を深めるため、十分準備をして臨むこと。									

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	講義紹介	講義の流れ、評価の仕方を理解する。	(復習) 使用テキストの入手および目次・序章に目を通して おく。
2	MOTの役割と視点	価値創造の概念を理解し関連事項について説明 できる。	(予習)テキスト2章に目を通しておく (復習)議論のポイントを 整理する
3	組織能力と役割	組織能力の役割と位置づけ、構築の仕方について 理解し、説明することができる。	(予習)テキスト3章に目を通しておく (復習)議論のポイントを 整理する
4	製品アーキテクチャ	モジュラー型とインテグラル型についてそれぞれ理 解し、説明することができる。	(予習)テキスト4章に目を通しておく (復習)議論のポイントを 整理する
5	コア技術戦略	コア技術を用いた戦略について理解し、事例を分 析することができる。	(予習)テキスト5章に目を通しておく (復習)議論のポイントを 整理する
6	プラットフォーム戦略	プラットフォーム戦略の重要性を理解したうえで、 その競争力について考察することができる。	(予習)テキスト6章に目を通しておく (復習)議論のポイントを 整理する
7	イノベーションの理論と本質	イノベーションに関する理解を戦略論をもとに深 め、議論することができる	(予習)テキスト7章に目を通しておく (復習)議論のポイントを 整理する
8	レポート発表	研究対象企業、産業におけるMOTについて報告す る	(予習)発表の準備 (復習)指摘されたポイント の修正箇所をまとめる
9	組織構造のデザイン	組織デザインの考え方やDMS、決定要因について 理解し事例を分析することができる。	(予習)テキスト8章に目を通しておく (復習)議論のポイントを 整理する
10	組織プロセスのマネジメント	技術・商品開発の組織プロセスについて理解し、 日本企業の特徴と今後について考えることがで きる。	(予習)テキスト9章に目を通しておく (復習)議論のポイントを 整理する
11	プロジェクト知識のマネジメント	「知識」をキーワードにMOTを考え、考察するこ とができる。	(予習)テキスト10章に目 を通しておく (復習)議論のポイントを 整理する
12	顧客価値創造の事業システム	顧客の視点を加え、商品開発について事例をも とに考察することができる。	(予習)テキスト11章に目 を通しておく (復習)議論のポイントを 整理する
13	事業システムのデザインとマネジ メント	事業システムの統合と分業それぞれについて理解 し、内製・外注の戦略について説明することがで きる。	(予習)テキスト12章に目 を通しておく (復習)議論のポイントを 整理する
14	企業間ネットワークとマネジメント	企業間ネットワークの構築方法とマネジメント方法 について理解し説明することができる。	(予習)テキスト13章に目 を通しておく (復習)議論のポイントを 整理する
15	総括	試験の解説およびレポートの講評を受け、理解を 深め研究に関する示唆を得ることができる。	(予習)試験の自己採点 (復習)レポートの修正
総学習時間数			90 時間
講義			25 時間
自学自習			65 時間